



昆虫たちは…スゴイ

ただいま「バッタバッタとバッタ展」開催中。職員手づくりの展示場に、職員たちで捕まえたバッタや鳴く虫たちが約30種類。私も一緒になって採集に行きました。



葉と同じアオマツムシ (オス)



小さいね、カネタタキ (メス)

いいオッサンたちが虫カゴと補虫網をもって野原を一心不乱に駆け回る様はちょっと異様。簡単には捕まらないけど結構ハマります。家へ帰っても庭で鳴く虫が気になり、懐中電灯もってアオマツムシやツユムシなんかを捕まえます。カネタタキなんかは南天の葉っぱの下にパラソルを置き枝をゆすればパラパラ落ちてきます。

それにしても不思議な昆虫たちの世界です。なぜ羽をこすり合わせてあれだけ変化に富んだ鳴き方ができるのか。カネタタキなんかは体長1センチメートル程度の小ささでよくもあんなに大きな音が出せるのか。

庭で虫を捕まえていると、イモムシを見つけたと妻。調べると蝶のキアゲハの幼虫でした。早速水槽で飼ってみることに。幼虫の時期も最後の段階で、2,3日ミツバの葉を食べるだけ食べたらさっさとサナギになってそのまま10日間、じっと羽化を待ってました。われわれいくら食いだめしても、10日間飲まず食わずでは死んじゃうでしょう。だいたい、変態するのがスゴイ。人間の変態なんか足もとにも及びません。



サナギ前夜



キアゲハとサナギのから

擬態っていうのもある。草むらでは同じ青(緑)色で見つけづらいバッタなんて序の口、ご存じ尺取り虫(シャクガの幼虫)はほとんど葉っぱの茎。ナナフシなんかは最初から小枝で

よかったんじゃない?と思うのはこっちの感覚。いかに捕食者の目をくらませるか、そのことに心血を注いだ進化の歴史だったのでしょ。それでも彼らは生きる。平成22年は国際生物多様性年。日本だけでも約10万種という昆虫がいます。それもすごく身近な所に。普段気がつかなくても、私たちはいかに多種多様な生き物に囲まれて暮らしているか、そのことをバツ展でぜひ感じてみてください。



気をつけシャクガ幼虫



怖いぞ、コロギス

(平成22年9月16日)

2010年9月16日

過去の一覧

[令和6年](#)

[令和5年](#)

[令和4年](#)

[令和3年](#)

[令和2年](#)

[令和元年](#)

[平成30年](#)